

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（手術時に採取した組織）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（手術時に採取した組織）を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

胸腺癌組織における TIL・TLS および NLR などの末梢血炎症マーカーと術後予後に関する後ろ向き観察研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 佐野由文 心臓血管・呼吸器外科（教授）

【研究代表者】 岡山大学学術研究院医歯薬学域 病態制御科学専攻腫瘍制御学講座 呼吸器・乳腺内分泌外科学分野 豊岡 伸一（教授）

【研究の目的】

胸腺がんは予後不良な稀少がんの一つであり、単一施設での症例経験は少なく、十分な研究は進んでいません。また、近年他臓器がんで使用されている免疫チェックポイント阻害薬も臨床応用されておらず、有効な薬剤の開発が課題となっています。また、その予後を予測する指標も現在存在しません。

そのような中、我々は腫瘍組織における腫瘍浸潤リンパ球（TIL）および3次リンパ節組織様構造（TLS）に着目しました。これらは近年がん免疫療法の新規バイオマーカーとして報告が増えてきていますが、胸腺がんにおいてそれぞれが関係するかを検討した報告はありません。また、末梢血好中球/リンパ球比（Neutrophil-to-lymphocyte Ratio、以下NLR）などの全身の炎症状態を示す各バイオマーカーは多くの固形がんにおいて予後因子と

して近年注目されています。これらは採血データのみから簡単に計算できる利点があり、昨今様々な疾患において研究が進められているものです。

そこで、当院および共同研究機関で胸腺がんに対し手術を施行された患者さんの治療成績と各バイオマーカーの関係について過去の記録に遡って解析・評価することに致しました。

【研究の方法】

(対象となる患者さん) 2010年4月1日～2020年12月31日の間に愛媛大学医学部附属病院および共同研究機関で胸腺がんに対して手術を受けられた患者さん(手術時の年齢が20歳以上の方)

(利用するカルテ情報や保管されている試料)

- ・病歴、年齢、性別、身長、体重、既往歴、投薬歴、病期
- ・血液検査、画像検査(CT・MRI・PET)、病理学検査
- ・治療内容(手術)、術前後の化学療法・放射線療法の有無および内容
- ・術後経過、再発の有無、再発後治療歴、生存情報(手術日からの生存期間)、死因
- ・手術時に採取した組織

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータ/試料は、匿名化されて、電子ファイルを送付、あるいは試料(手術時に採取した組織)を郵送することによって岡山大学病院呼吸器外科に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または研究終了後20年間、岡山大学においては岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座呼吸器・乳腺内分泌外科学内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

第1版

岡山大学病院 呼吸器外科 担当医師 氏名：土生 智大、山本 寛斉

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院心臓血管・呼吸器外科 大谷真二

791-0295 愛媛県東温市志津川 454

連絡先(089-960-5331 平日：9時から17時)